

2015年5月20日

# チケットティング事業への マイナンバーの活用について

ぴあ株式会社

# ■活用の「機会」■

生活者(ユーザー)

主催者(販売)



申込

購入

発券  
(分配)

入場



受付

決済

デリバリー

認証



## ■活用の「ねらい」となるもの■

「電子チケット」としての利用

＝「個人認証」ツール

- ・入場のデジタル化
- ・チケット不正購入防止
- ・会場内セキュリティ対策
- ・ファンマーケティング

## ■活用にあたっての仮説■

「マイナンバーカード」は  
外に持ち歩きにくいだろう。



- a)「電子証明書」の活用
- b)「マイナンバーカード(スマホ連携)」  
の電子チケット活用

# ■システム概要■

カードの個人識別ID  
マイナンバー自体でもよい



マイナンバー  
認証システム



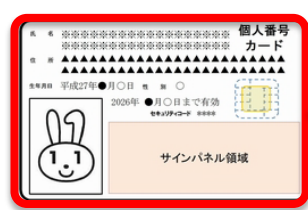
購入

発券・情報印字



または

(もぎり)



入場認証



マイナンバーカード  
マイナンバーカードと連携したスマホ

## ■活用の仕組み①■

a) チケット購入時に「電子証明書」  
を利用して個人を特定



- ・購入時の入力簡素化＝利便性
- ・不正購入防止＝会場座席データと個人特定データの連携

# ■運用イメージ(基本)■

個人の  
特定

- ・受付条件(年齢等)
- ・重複排除



マイナンバーカード  
(電子証明書)

購入者 =  
来場者 =  
座席

チケット  
ぴあ

購入前手続き  
(ユーザー登録)

座席の  
連携



チケット購入  
→ 発券

もぎり  
→ LIVE会場

券面に個人  
特定情報記載



## ■活用の仕組み②■

### b)「マイナンバーカード(スマホ連携)」 の電子チケット活用



- 入場認証に利用 = 不正入場防止  
= 会場内セキュリティ対策
- スマホによる「マイチケット」の実現  
= 利便性 / マーケティング利用



# ■運用イメージ(+α)■

個人の  
特定

・受付条件(年齢等)  
重複排除



購入者 =  
者 =  
席

チケット  
ぴあ

購入前手続き  
(ユーザー登録)

マイナンバーカード  
(電子証明書)

ゲートチェック  
(個人認証)

座席の  
連携

チケット購入

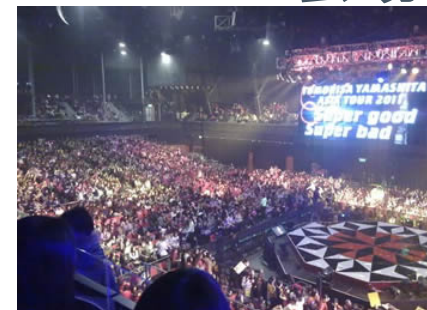
入場認証

→(分配)

→受け取り

→ LIVE会場

スマホ連携  
=「マイチケット」



# ■実現できること(生活者視点)■



## チケット受取りが簡便化

- ・コンビニ店頭などにチケットを引き取りに行かず直接会場に行ける
- ・配送受取の手間がなくなる。

## チケット分配が簡便化

- ・複数枚購入時に同行者に先に電子チケットで渡すことができる

## チケットの紛失が無くなる

- ・紛失の場合も購入情報からチケットを追える

## スマホが「マイチケット」になる

- ・マイナンバーカードと連携したスマホを利用して各サービスが享受できる

# ■実現できること(主催者視点)■



## 入場運用のスマート化

- ・チケットチェックのスタッフ不要
- ・チェックの見落としがなくなる
- ・偽造チケットを判別できる

## チケットの譲渡や交換の制御

- ・転売防止が可能
- ・席の割り付けは公演直前でよい
- ・チケットの分配・転送回数を制御できる

## 入場管理とセキュリティ

- ・リアルタイムでの入場者数・未入場者数を把握できる
- ・マイナンバーによるセキュリティ対策

## マーケティングデータの取得

- ・同行者の顧客データの取得
- ・購入者の来場記録の取得

# ■実現できること(産業視点)■



## より購入しやすい環境整備

- ・エンタテインメント市場の拡大→US市場規模との差が縮まる

## ユーザーデータ捕捉とビッグデータ化

- ・マイナンバーシステムを通じた他産業(交通輸送、公共サービスなど)との連動

# ■導入への課題■

～メリットの反面で発生しうる課題～

## ◎チケットの流通自由度を制限

- ＞動員施策が行われる場合（完売しない場合）
- ＞購入者または同行登録者が行けなくなった場合
- ＞購入者≠入場者の場合
  - ・家族、知人（出所が明確）からのプレゼント
  - ・2次流通サイトでの購入
  - ・不特定招待（スポンサーシップ、動員など）

## ◎入場ゲート運用スキーム転換の必要性

- ＞主催者負担のコスト発生
  - ・機材設置やスタッフ教育による専門性担保 など

## ◎最終的な導入可否の判断は、イベント主催者